

気管支ぜんそく

症状

- ・気管支喘息とは、気管支の炎症や収縮により肺への空気の吸入・呼出が困難になり、咳・喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒュー）・呼吸困難を起こす病気です。
- ・痰は白色、透明でサラサラしていて、発熱はありません。
- ・喘息の症状は夜間や早朝に発作的に起こることが多く、非常に強い呼吸困難が起こることもあれば、自然に症状が消えてしまう時もあります。
- ・喘息は、冷気・煙草や線香の煙り・香水などを吸い込むと敏感に反応し、咳や喘鳴が誘発されやすい特徴（気道過敏性）があり、運動や飲酒で悪化することがあります。

治療

軽症

- ・発作性の咳・軽い喘鳴・呼気の延長がありますが、呼吸困難は軽く横になることができ、通常の会話もできます。
- ・気管支拡張剤の内服や吸入で簡単に治ってしまうので、夜間に起きて翌朝まで待つて内科を受診しましょう。
- ・軽症患者さんの中には咳・痰や喉頭の違和感だけが長引く場合（咳喘息）もあるので、専門医（呼吸器内科医）を受診することをお勧めます。

中等症

- ・週に1回を超える発作があり、発作時には息が苦しく横になれず、会話も困難になります。
- ・気管支拡張薬の内服だけでは喘鳴や息苦しさが消失しないので、気管支拡張薬の吸入に加えてステロイド薬の吸入を行います。
- ・定期的に専門医を受診することが必要になります。

急患診療センターを受診するめやす

- ・発作時には点滴治療が必要になることもありますので、咳と喘鳴が取れず、息苦しさに眠れないような場合には急患診療センターを受診して下さい。

救急車を呼ぶめやす

- ・喘鳴や呼吸困難が強く、チアノーゼ（唇や爪が青黒くなる状態）が出現して意識が朦朧となり、血液中の酸素濃度が低下するような場合は、入院して酸素吸入や点滴が必要ですので、救急車を呼んで下さい。